

強豪校 新たな目標へ

高校運動部 活動始まる

一斉休校中だった道内の高校が再開した1日、一部の学校では部活動も始まった。各校とも新型コロナウイルスの感染防止策を徹底。今夏の全国大会が軒並み中止となったが、スポーツ競技の強豪校の生徒たちは新たな目標へ向けて歩み出した。

「声を極力出さず、(お互いの)間隔を空けて」。1

カ月半ぶりに練習をした札幌日本大学高(北広島市)剣道部の佐賀豊監督(56)は

竹刀を持って素振りをする部員に注意を促した。

夏の全道高校大会では昨年まで2年連続で男女個人

・団体の全4種目を制覇。全日本剣道連盟が対面での実戦的な稽古の自粛を要請

しているため、3年生男女12人は防具を着けずに1時間ほど素振りなどの基礎練習を行った。

男子の尾野翔哉主将(18)は「久々に仲間と練習でき意識が上がった」。女子の浜島桃子主将(17)も「当面は国体出場が大きな目標」と明るい表情だった。



久々の練習に励む札幌日本大学高剣道部の3年生たち (金田淳撮影)